かけがえのない命はどこにあるのか

命って、どこにあると思いますか？

今朝のオンライン朝の会で出したこの問いに、子どもたちは「心臓！」と答えました。

心臓は命ではありません。
体中に血液を送り出す大切な臓器ですが、命そのものではないのです。

実はこれ、ある有名な方が長年行ってきた「命の授業」です。

その方の名前は、故日野原重明先生。

私はこの方の本がとても好きで、何度も繰り返し読んでいます。

日野原先生は、100 歳を越えても尚全国を飛び回り、そして子どもたちに向けて命の授業を実践されました。子どもたちに、
「命ってなんだと思う？」
と先生が問いかけると、どの子も必ず心臓に手を当てるそうです。

日野原先生は、「それは違います」と優しく諭されて、次のように話されました。

「心臓は”いのち”ではありません。心臓は単なるポンプです。”いのち”は目に見えないものです。確かにあるものだけれど、でも、目には見えない」

では、命とは何か。

「昨日も今日も見えないけれど、寝たり、勉強したり、遊んだりするのは、きみたちの持っている時間を使っているんだよ。時間を使っていることが、きみが生きている証拠。つまり、命とは君たちが持っている、使っている『時間』なんだよ」

この授業を、毎年追試しているというわけです。

時間が命。

ということは、みんなは命を使って勉強をしているわけです。

私も、命を使って仕事をしています。

大切な命を使っているのですから、命そのものである時間も無駄に使わず、大切に使いたいものです。

日野原先生は、授業の最後に次のように伝えられました。

「人間は、限られた“いのち”を持つ生き物です。人のために使った時間と自分のために使った時間のバランスはどうなっていますか?

「今はまだ小さいから難しいかもしれないけど、大人になったら、人のために自分の時間を使えるような人になって下さい。」

かけがえのない命を大切に使えるように、そしていつかは人のために使えるように、学びを続けていきます。（文責：渡辺道治）

かけがえのない命はどこにあるのか

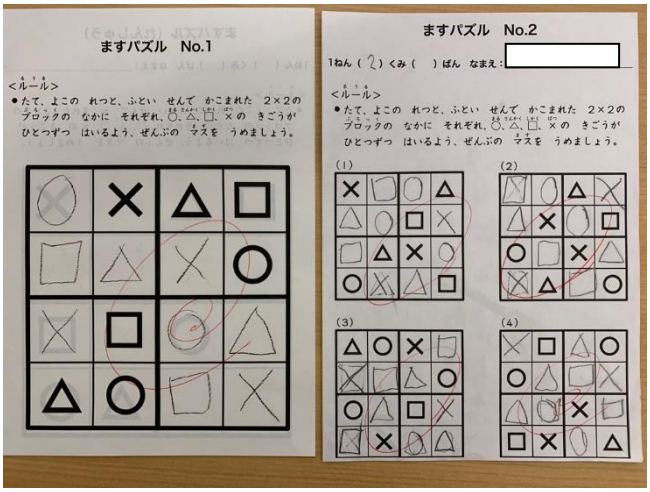
数の授業では数字の正しい書き方を覚えたり、ますパズルをしたりしています。

ますパズルはナンプレと同じでたて、よこ、太い線の中にそれぞれの図形が１つずつはいるというものです。

だいたいの子が１回やり方を教えただけで、自分でどんどん解いていっています。

今は簡単な記号で行っていますが、ちょっと難しい形から次は絵と数字が書いてあるもの、最終的には数字だけで難易度を変えるというふうにレベルを上げていきます。

早い子はどんどん進んでいますが、ゆっくりでも自分の力で解こうとする子がほとんどです。



ますパズルでは脳が活性化するだけではなく、自分で考える力、最後まで粘る力なども身に付いてきます。
数字の書き方の学習のときでは、2.3 回書いたら OK と伝えていても、1 行書き終わると子どもたちは「このページ最後までやっていいの？」や「次のページもやっていい？」ととても意欲的に学習しており、ほとんどの子がノートびっしり書いていました。

算数の授業では数の授業とは違い、ただ計算、暗記するだけではなく、なんでそうなるのか、解き方や考え方など考えながら授業を行っています。
今までの算数では同じものを囲むことや、1 対 1 の対応などを学習しました。
同じなかまを囲む活動の時は、よーく見てぼうしや、リュックと細かいところまで囲んで発表してくれる子もいました。（文責：中山絵未）